

同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相願候也
年月日

連署人ハ前願書式ニ準シ住職、
檀徒總代及交換地所有者並ニ法
類本寺署名捺印スヘシ

府縣知事宛

(備考) 地所交換ノ場合ハ寺有地所ヲ以テ他
ノ所有地ト交換スルトキハ兩地ノ坪
數價格同等若シクハ其以上ノ場合ニ
アラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又交
換地ニ付テハ土地臺帳謄本及甲乙兩
地ノ利害比較表ノ添附ヲ要ス

◇地所開墾許可願

何府縣市郡町村大字

何寺院

地番

一地目 反別

持主 何

寺

地價金 圓也

右當寺所有ノ山林ニ有之候處今同畑地ニ開墾致
度候間願意速ニ御許可相成度關係者一同連署本
派管長ノ副仲及施業方法書圖面相添へ此段相願
候也

年月日

連署人ハ住職、檀(信)徒總代、法類、本寺

府縣知事宛

△開墾施業方法

所有地 何府縣市郡區町村地番地目記載

全反別 何反何畝歩

開墾反別 何反何畝歩(分筆開墾ノ場合)

開墾願人 所在地及寺院名記載

開墾地目 田、畑、宅地等

施業地 開墾方法記載

土性 地質ノ肥瘠

地表 混地雜草塵芥木竹雜生スル等ノコト
ヲ記載ス

地勢 高低、傾斜、平坦、凹凸等ノ類

林木種 松、杉、雜木等ノ類

地番

一地目 反別

地價金何圓也

右之地所今般當縣何處ニ通スル縣道改修敷地ニ
當リ候故公共事業ノ爲メ寄附致度候條御許可相
成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此
段相願候也

年月日 連署人ハ住職檀徒總代、法類

本寺

府縣知事宛

(備考) 要償金ハ寄附行爲ナレハ不要ナル義

ナレトモ寺有財産ハ濫ニ減却スヘキ

モノニアラサレハ多少ノ補充資金ヲ

要スルモノトス、尙圖面必要ノ場合

ハ一葉添附スヘシ

◇土地所有名義訂正願

府縣市郡町村大字

新義眞言宗智山派 何寺院

林木齡 何年
疎密 ……
慣行伐採 ……
以上

右之通り相違無之候也

年月日

住職、檀徒總代連署

(備考)

開墾願書ニハ圖面一葉添附スルコト
猶開墾成功ノ上ハ稅務署及管長ニ届
出ツヘシ

◇地所寄附願

(本願ハ公共事業ノ爲メ表面賣却行爲ヲ爲
ス能ハス仍テ相當ノ要償金ヲ以テ寄附ス
ルトキ)

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何寺院

何 寺院

一金何百圓也 利子一ケ年金何圓也
右ハ年月日御承認ヲ經 月 日地方廳ノ許可ヲ
得テ賣却セル所有田何筆ノ賣却代金ニ有之候處
別紙ノ通り公債ヲ買入(又ハ郵便貯金トシ)確實
ニ保管仕リ又利子ノ義ハ寺院收得ノ財産トシテ
住職ニ附與致度候間御承認相成度此段連署ヲ以
テ出願候也

年 月 日 連署人ハ住職、檀徒總代
管 長 宛

(備考) 公債買入ノ場合ハ日本銀行へ甲種登錄

シ登錄通知書寫ヲ添付スヘシ、郵便貯
金ナラハ通帳記號番號添付ノコト

◆堂宇貸與承認可願

府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村大字何々

何 寺院

本堂又ハ庫裡ノ一部 坪數何坪

貸與料一ケ年(又ハ一ケ月)何圓也

地番
一 地目 反別 持主 何之誰

地價金何圓也

右之地所從來當寺所有ニ有之候處明治何年地價
修正ノ際誤テ當時檀徒總代某(或ハ住職其他)
ノ名義ヲ附シタルコト寺院財産整理上不都合ニ
付前記ノ土地所有名義ヲ當寺名ニ御訂正相成度
關係者一同連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段相
願候也

年 月 日

連署人ハ前書式ノ署名人ニ土地
所有名義者ノ捺印ヲ要ス

知事(又ハ稅務署長)宛

(備考) 該土地未登記ナラハ稅務署ニ願フヘ
シ

◆土地賣却代金保管並利子用途

法承認願

何府縣何宗務支所管内

何府縣何市郡何町村大字何々

右ハ當寺本堂(又ハ庫裡)ノ一部當村小學校新築
迄貸與ノ義當該町村長ヨリ請求有之右ハ公共事
業ナルヲ以テ前記ノ料金ニテ貸與仕度尤モ教會
法要其他寺務上ニ支障無之又貸與中ハ寺院ノ體
面ヲ汚損セス火災等ノ憂ナキ様留意可致候間特
ニ御承認相成度此段連署ヲ以テ相願候也

年 月 日

連署人前記ノ通り

管 長 宛

◆寺有金使用許可願

府縣何市郡何町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

一金 圓也 寺有金

內金 圓也

一時使用額

右者當寺寺有金ニ有之候處今般地所買入ノ爲メ
一時至急ヲ要シ檀(信)徒ニ於テモ出金ノ途無之
一同協議ノ上寺有金ノ内前記金額使用仕度尤モ
該金ハ別紙書面ノ方法ニ依リ填補仕候間御許可

相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及填補
方法書相添へ此段相願候也

年 月 日

連署人住職、檀徒總代、法類、
本寺

府縣知事宛

△什金填補方法

一金何圓也

右金額ヲ填補スル爲メ住職及檀徒何十戸ヨリ毎
日何圓也積立テ何ケ年ニ填補(又ハ寺院ノ財產
所得ヨリ一ケ年何圓也積立何ケ年ニテ金額ヲ填
補)可致候也

年 月 日

住職、檀徒總代人連署

◆什寶物寄托願

府縣何市郡區村大字

新義真言宗智山派 何 寺院

什寶物何々
筆者、彫者、着色、鑿何尺、横何尺
右ハ當寺什寶物ニ有之候處今般一般世人ニ知ラ
シメンカ爲メ何博物館ニ寄托致度雙方異議無之
候間御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ
副仲相添へ此段出願候也
年 月 日

連署人住職、總代、法類
本寺
地方長官宛

(備考) 若シ國寶ナルトキハ文部大臣ノ許可
ヲ受クヘシ

◇寶物保管承認願
(美術品トシテ指定セラレタル場合ノ如キ)
府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺院
寶物 何々

同上ノ通り記載

右ハ當寺所藏ノ寶物ニ有之候處今般美術上ノ參
考ト相成寶庫ニ格護致スヘキ筈ノ處當時ニハ寶
庫スハ倉庫ノ設備無之ニ付鎖鑰ヲ有スル鞏固ナ
ル函ニ入レ本堂内ニ保管仕度候間特ニ御承認相
成度關係者連署シ本派管長ノ副仲相添へ此段出
願候也
年 月 日

連署人前記ノ通り
地方長官宛

◇國寶物修理費補助願
府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺院

何々
同上ノ通り記載
修理費金何百圓也
内
金何百圓也 補助出願額

金何百圓也 當寺負擔額

右ハ曩ニ國寶ニ指定セラレタル寶物ニ有之今回
日本美術院ニ托シ修理仕度候處前記ノ修理費ヲ
要シ候得共到底全部ノ負擔ニ難堪候ニ付該修理
費幾分ニ相當スル金額ヲ國法保存法ニ依リ御補
助被成下度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲及
修理請負契約書相添へ此段出願仕候也
年 月 日

連署人前記ノ通り
文部大臣宛

(備考) 修理請負契約書ハ定メラレタル書式
アリ仍テ該書式ニ依準シ雙方調印契
約スヘシ

◇佛像開扉許可願
府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺院
開扉佛像 何々
右ハ當寺秘藏ノ佛像ニ有之候處今回諸人結縁ノ

爲メ開扉スヘキ様信徒ノ懇請ニ依リ何年何月何
日ヨリ何月何日迄開扉仕度勿論勸財強制的行爲
ハ決シテ致間敷候間御許可相成度關係者連署シ
本派管長ノ副仲相添へ此段上願候也
年 月 日

連署人住職、檀徒總代、法
類、本寺
地方長官宛

(備考) 更ニ開扉執行方法書一通添附ノコト
◇佛像出開張許可願
府縣市郡區町村大字
新義真言宗智山派 何 寺院

開張佛像 何々
右ハ當寺靈像ニ有之候處從來ノ例ニ依リ今回何
縣管内へ出開張仕度候間明治十七年三月内務省
乙第十六號達ニ基キ出願仕候間御許可被成下度
尤モ御許可ノ上ハ某縣知事ノ許可ヲ受クヘク關
係者一同連署シ本派管長ノ副仲及規約書相添へ

此段上願候也

追テ開張ノ日時並ニ場所ノ確定次第當寺住職ヨリ御届可申候也

年月日

連署人前記ノ通リ

府縣知事宛

△開張執行規約書

一何佛像開張法式執行スルハ素ヨリ教法ヲ擴張シ庶民化導ヲ主トシテ王法ヲ翼賛スルヲ專トスルコト

一開張中ハ連日午前何時ヨリ始メ午後何時限リ開閉嚴重ニ致スヘキコト

一信徒取締又ハ執行者共ニ毎日出席シ百事ヲ監視參詣者等混雜ナキ様致スヘキコト

一偽物ヲ飾リ衆人ヲ眩惑シ或ハ金錢強制等ノ義決シテ致聞敷コト

其他必要ノ條項ヲ記載ス

右之條々確實ニ相守リ不都合無之様可仕此段規

約致候也

年月日

開張從事者連署

(備考)

出開張ハ内務省令第十六號ニ基キ管内ニ出ツルトキハ甲乙兩官廳ノ許可ヲ得タル上開張スヘシ又開張場所ハ豫メ決定シ當事者主任ヨリ其都度届ヲ爲スヘシ

◆境内へ佛像安置許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

安置スヘキ佛像記載

右ハ今般當寺檀徒ノ寄附鑄造ニ依ルモノニ有之當寺境内へ永久保存安置仕度候間御許可相成度關係者一同連署本派管長ノ副仲及方法書並圖而相添へ此段相願候也

年月日

連署人任職、檀徒總代、法

類、本寺

府縣知事宛

△方法

一 佛像安置ノ位置 別紙圖面ノ通

二 佛像ヲ安置スヘキ土地ノ種目 官民有地第種

三 佛像ノ物價 金、石、木、土等

四 製作法 彫刻、鑄物等高尺

五 費用募集及支出方法

費用ヲ募集セス(若シ募集スルナラハ其ノ方法記載) 支出ハ當事者何誰擔任ス

六 佛像ノ管理及維持法

管理ハ當寺住職ノ責任トシ檀徒(又ハ信徒)ノ喜捨金ヲ以テ維持ス

右之通相違無之候也

年月日

連署人前記ノ通リ

◆寺院境内地紀念碑建設願

右寺院前住職又ハ檀徒ハ(詳細ナル理由ヲ記スヘシ)事情有之當寺ニ對シ其ノ效勞尠カラス候間特ニ當寺ノ境内地ヲ選テ同氏ノ碑表ヲ建設セントスル儀ニ有之候間御許可相成度別紙碑文寫並ニ圖面添付此段奉願候也

年月日

府縣市郡町村大字 寺住職

級 氏 名 回

右檀徒總代三名 回

府縣知事宛

(備考) 碑文ノ寫及建碑ノ位置ヲ示シタル現境内ノ圖面ヲ添フヘシ

◆國寶指定願

府縣市郡町村

新義眞言宗智山派 何々 寺

右寺ハ弘仁年間弘法大師ノ開創ニシテ中古ノ沿革未詳ナレトモ當寺本堂ニ安置スル正觀世音菩

薩ノ像ハ運慶法師檀木ヲ以テ彫刻シタル像ナル
コトハ何々舊記ニ依ルモ明瞭ノ事實ニ候ヘハ御
調査ノ上國寶ニ御指定被成下度別紙目錄相添ヘ
此段請願仕候也

右何寺住職及關係人連署

文部大臣宛

此願書ニ出願セントスル佛像ノ寸法臺座厨子ノ
形狀等ヲ詳細ニ記シタルモノヲ添フヘシ

◇寶物觀覽料徵收許可願

(殿堂及庭園モ之ニ準知スヘシ)

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺 院

寶物種類詳細列記(庭園及建物ハ坪數記載)

右ハ當寺什寶物ニ有之從來閉鎖罷在候處今般結
緣ノ爲メ殿堂内ニ陳列シ一般衆庶ニ觀覽セシメ
取締法トシテ別紙ノ通り觀覽料ヲ徵收仕度候間
御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副仲
相添ヘ此段出願候也

年月日

連署人ハ住職及檀徒總代

地方長官宛

△觀覽料徵收方法

- 一位 置 寶物ハ本堂ノ外陣ヨリ書院ニ陳列ス
- 一來 歷 寶物ノ由緒
- 一觀覽料 一人何錢
- 一徵收ノ理由 觀覽人ノ混雜ヲ避クル爲メ
- 一徵收期間 何月間
- 一料金處分 確實ナル銀行ニ預入シ堂宇修繕費ニ充ツ

右之通相違無之候也

年月日

連署人前記ノ通り

◇寄附金募集願

何府縣何市郡何町村大字何

新義眞言宗智山派 何 寺 院

右舊藩時代何々公ヨリ該寺接續地高何百石ヲ何
々領トシテ附與相成該寺ヲ維持致シ來リ候處維
新後御改革相成候以來右様ノ事無之僅ニ七十餘
戸ノ檀家ニテ目下大破セルモ修繕及維持ノ方法
相立タサルニ付今般廣ク信仰諸人ヨリ寄附募集
ノ上修繕費及永久維持資本ニ致度候間御許可被
成下度別紙設計書及募集調書相添ヘ此段奉願候
也

年月日

府縣郡村大字何

右何々寺住職 級 氏 名 回

右檀徒總代 三 名 回

府縣知事宛

△募集調書

一募集ノ目的

該寺ハ資本財産ヲ有セス僅ニ七十餘戸ノ檀家
ニテハ維持及ヒ難ク遺憾ニモ維新後完全ナル
修繕ヲ爲ササル爲メ大破ノ個所多ク現ニ修理
セサルヘカラサルニ相迫リタルニ依リ弘ク信
仰諸人ノ寄附ヲ得是非修繕及維持資本ノ設備
致度目的ニ有之候

一修繕費 金 圓

一維持資本 金 圓

一募集方法

該寺ノ住職及ヒ檀徒總代各地ニ出張シテ募集
シ住職ヨリ右募集ニ關スル書類ヲ添付シテ寄
附ヲ申入ル、方法ニ候
受納手續ハ募集臺帳及一定ノ受領證ヲ備ヘ置
キ金員ヲ領收シタル時ハ直ニ記帳ノ上受領證
ヲ交付シ右ノ記帳交附ハ住職掌理ス

一募集金額 金 圓也

一募集區域 何々縣管内

一 募集金管理方法

住職ニ於テ管理シ募集シタル金額 圓ニ達シタル時ハ直ニ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ利殖シ置キ修繕費ノ外該方法ニヨリ永遠維持スルモノトス

(別紙) 修繕設計書

一金 圓

内 譯

金 圓 杉何百本

但一本 錢ノ見込

金 圓 栗何百本

但一本 錢ノ見込

金 圓 松何百本

但一本 錢ノ見込

金 圓 何々

但何々

金 圓 工作料費

但大工木挽其他凡何百人

右ノ通り設計仕候也

年月日

設計者 氏 名

(別紙) 三ヶ年間ノ間該寺院收支計算調

(書式略ス)

(注意) 募集ノ區域二以上ノ府縣ニ跨ルトキハ

文部大臣ノ許可ヲ要ス

◆寄附金募集延期願

府縣市町村大字何々寺本堂庫裡修繕寄附募集ノ儀何年月日指令第何號ヲ以テ御許可相成爾來募集ニ從事罷在候處本年凶作ノ結果一般困難ノ場合寄附金蒐集ノ見込相立タス候ニ付何年月日迄募集期限延期ノ儀御許可被成下度檀徒總代連署ヲ以テ此段奉願候也

年月日

府縣市郡村大字何々

新義眞言宗智山派

何々寺住職 級 氏 名 印

右檀徒總代 三 名 印

府縣知事宛

△寄附金募集従事者

住所 職業 氏 名

同 上 生年月日

同 上 氏 名

同 上 同 上

右之者ヲ以テ寄附募集ニ従事セシメ決シテ前記以外ノ者ヲシテ募集セシメ間敷候也

年月日

連署人前記ノ通り

(備考) 寄附募集従事者ハ身分確實ナルモノ

ヲ選ミ認可ヲ得タル者ノ外他人ヲ用

ユルコト能ハス若シ以外ノ者ヲシテ

募集セシムルトキハ規定ノ處罰ヲ受

クルニ依リ従事者ヲ變更シタルトキ

ハ直ニ手續ヲナスヘシ

又募集ノ目的カ堂宇再建ナルトキハ

建築設計書及圖面ヲ添付スヘシ

◆官有境内地増加願

何府縣何市郡町村大字

新義眞言宗智山派 何寺院

一官有荒蕪地 坪

當寺ハ何々(事由詳記)ニシテ法要執行ノ際境内狹隘ノ爲メ參詣人群集シテ不都合尠ナカラス然ルニ前記ノ地所ハ當寺境内地ニ接續シテ自然境内地タルノ風致ヲ爲シ居ル箇所ニ有之候間當寺境内地へ編入増加ノ儀御許可被成下度別紙圖面相添ヘ干與人連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

右寺住職 何之 誰 回

(干與人連署)

府縣知事宛

(當該町村長經由)

(備考)

一、見取圖ヲ添付スヘシ

一、寺院境内地ノ増減變更ハ事實已ムヲ得サル場合ナラサルヘカラス而シテ圖面ハ建

物ノ位置ヲ示シタル現境内並編入セントスル荒蕪地ノ狀況ヲ見ルニ足ルヘキ見取圖ヲ要ス

一、民有境内地ノ増加願又ハ官、(民)有境内地ノ區域變更願等ハ本例ニ準シテ作成スヘシ

◇民有境内地分割願

何府縣何市郡町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

市郡町村大字何番地ノ一號

一民有境内

地價金 圓

市郡町村大字番地ノ二號

一民有境内

地價金 圓

右當寺境内地總坪

坪中 番地ノ二號

地ハ寺務執行ニ差支無之ハ勿論風致ヲ毀損スル憂毫モ無之且地勢自ラ境外ノ形ヲ爲シ居ルヲ以

テ從來ヨリ一號地ノ間ニ杉垣ノ設ケ有之其ノ中ハ常ニ近傍兒童ノ遊戯場ト相成居候ニ付境外地ニ分割致シ幾分寺門ノ經營費ヲ補充致度候間御許可被成下度別紙境内地圖相添ヘ干與人連署ヲ以テ此段相願候也

年 月 日

右寺住職 何 之 誰 團

(干與人連署)

府縣知事宛

(當該町村長經由)

(備考)

- 一、建物位置及四隣ノ狀況ヲ示シタル見取圖ヲ添付スヘシ但シ分割スヘキ部分ニハ朱線ヲ引キ境内外ノ區分ヲ明記スヘシ
- 一、同番地ノ境内ヲ境外ニ分割セントスルニハ先ツ稅務署ヘ分筆届ヲ爲シテ地番ヲ二分スルヲ要ス
- 一、本類ハ其ノ筋ノ取扱上一定ノ制限アルハ勿論近來容易ニ許可セラレサルヲ以テ境

内境外地續ノ向ハ境内外土地組織ヲ出願スルヲ便宜トス

◇境内地貸渡許可願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

所在

境内地何坪 官(民)有地

地價金(民有地ノトキ)

内何坪 貸渡地

貸渡料一ヶ月金何圓

右當寺境内ニ有之候處 年 月 日ヨリ三ヶ月間市郡何町村大字何番地何之誰ヘ參詣人休息所建設ノ爲メ前記ノ坪數貸渡 尤モ該地域ハ圖面朱引ノ通當院ノ風致其他法要等ニ毫モ支障無之又貸渡料ハ當寺修繕費ノ内ヘ差加候間願意速ニ御許可相成度關係人一同連署シ本派管長ノ副伸並圖面相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右寺住職及干與人連署

地方長官宛

(備考) 境内地ノ貸與ノ期間ハ三ヶ月ヲ超ユル能ハス又目的ハ永住家屋等建設ヲ許サ、レハ若シ期間延長スルトキハ繼續貸與ノ手續ヲナスヘシ

◇境内枯損木伐採願

府縣市郡區町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

枯損木何 目通何尺何寸 何本

右ハ當寺境内樹木ニ有之候處數年來枯損ノ爲メ腐蝕ヲ生シ候間伐採御許可相成度關係者一同連署シ本派管長ノ副伸相添ヘ此段相願候也

年 月 日

連署人ハ住職、檀徒總代

地方長官宛

(備考) 病木、風損木、障碍木ノ伐採ハ凡テ此ノ書式ニ準シ認ムヘシ

◆寺院境内樹木伐採願

一杉立木 目通 何本
 五尺 何本
 一松立木 目通 何本
 三尺 何本
 右ハ當寺境内ニ存在スル樹木ニシテ別ニ風致木ニ無之ニ付今般當堂本堂及庫裏修繕用トシテ伐採致度候間御許可被成下度別紙圖面相添此段奉願候也

年月日

何府縣市郡町村大字何

新義眞言宗智山派

何々寺住職 級 氏 名 名 名

右檀徒總代 三 名 名

府縣知事宛

附屬圖面ハ現境内ノ地圖、伐採セントスル樹木ノ位置ヲ朱書シ且ツ總樹木ノ數ヲ類別記載ヲ要ス

◆寺有山林伐木願

府縣市郡町村大字

新義眞言宗智山派 何 寺院

郡市町村大字何番

一、寺有山林 段別何程 此立木總數何本

内 譯

一、何木 目通一尺以上二尺以下 何本

一、何木 目通二尺以上三尺以下 何本

一、何木 目通三尺以上三尺以下 何本

(以下列記)

合計 本數 何本

代此金 何程

右ハ當寺本堂頽破ニ及ヒ改築致スヘキ目的ニ付該造營用材ニ供スル爲メ伐採仕度尤モ他ニ濫用不仕ハ勿論伐木跡地ヘハ向フ三ヶ年間ヲ期シ苗木植付等施業方法可仕候條何卒願ノ通伐採ノ儀速ニ御許可被成下度連署ヲ以テ此段相願候也

年月日

右寺住職 何 之 誰 名

(檀徒總代、法類總代、本寺連署)

府縣知事宛

諸法令補遺

○神佛道教會所規則(大正十二年七月二十四日)
文部省令第三十二號

第一條 本令ニ於テ教會所トハ何等ノ名稱ヲ用
ウルニ拘ラス繼續シテ神道又ハ佛道ノ教義ヲ
宣布シ又ハ其ノ儀式ヲ執行スルコトヲ目的ト
スル設備ニシテ祠宇、寺院又ハ佛堂ニアラサ
ルモノヲ謂フ

第二條 教會所ヲ設立セントスルトキハ神佛道
教宗派ノ管長又ハ教師ニ於テ左ノ事項ヲ具シ
地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

- 一、名稱
- 二、所在地
- 三、所屬教宗派ノ名稱
- 四、奉齋主神又ハ安置佛ノ稱號
- 五、擔任教師ノ氏名及資格
- 六、設立費用及其ノ支辨方法
- 七、管理及維持ノ方法
- 八、役員又ハ教信徒ハ信徒ノ總代ヲ設クルモ
ノニ付テハ其ノ人員職務並選定方法

第三條 設立者ノ變更ハ當事者ニ於テ地方長官

ノ許可ヲ受クヘシ但シ管長タル設立者ノ變更

ハ十四日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

前條第一號及第七號ノ變更ハ設立者ニ於テ地
方長官ノ許可ヲ受ケ第五號及第八號ノ變更ハ
十四日以内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 教會所ヲ合併シ若ハ之ヲ移轉セントス
ルトキハ第二條各號ノ事項ヲ具シ設立者ニ於
テ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ二以上ノ道府縣ニ涉ルトキ
ハ合併先又ハ移轉地先ヲ管轄スル地方長官ノ
許可ヲ受ケ合併若ハ移轉ノ後十四日以内ニ舊
所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ教會
所ヲ廢止シタルトキハ設立者ニ於テ十四日以
内ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第五條 第二條第三號及第四號ヲ變更セントス
ルトキハ更ニ設立ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 本令ニ依リ地方長官ニ提出スル文書ハ
教徒又ハ信徒ノ總代アル場合ニ於テハ其ノ總

代二名以上之ニ連署スヘシ

前項ノ文書中教師ニ於テ提出スル許可申請ニ付テハ當該教宗派管長ハ其ノ意見ヲ附スヘシ

第七條 教會所ニ於テハ主神ヲ奉齋シ又ハ本尊ヲ安置シ教徒信徒又ハ信徒タラントスル者ヲシテ之ヲ禮拜セシムルコトヲ得

第八條 教會所ニ於テハ教義ノ宣布又ハ儀式ノ執行ニ際シ公衆ヲ參集セシムルコトヲ得

第九條 教會所ニ於テハ神社ニ模擬スル建築構造ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 教會所ニ於テハ神符護符ヲ配布スルコトヲ得ス但シ其ノ教徒信徒又ハ信徒タラントスル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 教會所ニ於テハ門戸ニ其ノ名稱及所屬教宗派ヲ標示スヘシ

第十二條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ第二條乃至第四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

一、法令ノ規定又ハ許可ノ條件ニ違反シタル

トキ

二、公安ヲ害シ又ハ風紀ヲ紊亂スルノ虞アルトキ

第十三條 本令施行ニ關スル細則ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條 本令ノ規定ハ專ラ葬儀執行ノ用ニ供スルモノニ關シテハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ大正十二年九月一日ヨリ之ヲ施行ス從前規定ニ依リ設立シタル教會所ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ設立シタルモノト看做ス

○神道教會所規則ニ關スル通牒

(大正十二年七月二十四日) 神佛道各教宗派管長(宗教局通牒發宗九二號)
今般文部省令第三十二號ヲ以テ神佛道教會所規則公布相成本年九月一日ヨリ施行セラル、ニ付テハ從來發セラレタル達訓令通牒ニシテ右省令ノ規定ニ抵觸又ハ重複スルモノハ自然廢止セラ

レタルモノト御了知相成度尙教會所ニ於テ奉齋主神又ハ安置佛ノ爲ニスル場合ノ外仍國家公共ニ關係アル慶弔等特別ノ必要アルトキハ祭典法要ヲ執行スルハ妨ケ無之儀ニ付御了知相成度

○教院講社設置出願方ノ件

(明治七年七月十二日) 神道諸宗管長(教部省達乙第三十八號)

教院設置並講社願出方は迄區々ニ相成居候處自今總テ當省ヘ相宛其管長添書ヲ以テ可爲差出尤モ講社及社寺外ニ設置候教院ノ分ハ前以テ地所等ノ儀其管轄廳ヘ申立開齊ノ書面取副候儀ト可爲相心得此旨相達候事

但願主ハ何レモ本職補任ノ者ニ限り可申尤甲管内ヘ許可ノ講社乙管内ヘ分社取結候節モ出願手續等本文ノ通りタルヘク並其取締ハ同様本職ノ外不相成儀ト可爲相心得事

○教會所說教所ハ其祭神若クハ安置佛ノ爲メニスル場合ノ外祭典法用不相成件

三九二

(明治十八年三月一日) 神佛各管長宛(社寺局通牒社甲第六號)

教院教會所又ハ說教所ニ於テ其祭神若クハ安置佛ノタメニスル場合ノ外ハ祭典法用ヲ執行スルコトヲ得ス且其祭典法用ノ時タルト平時タルトヲ問ハズ社寺及祠宇ニ類似スル裝飾ヲナシ衆庶ヲ參拜セシムル等ハ不相成儀ニ有之又教師ハ教院教會所又ハ說教所ニ居住スル者ノ外ハ自宅ニ多衆ヲ集メ說教ヲナスヲ得サル次第ニ有之候條不都合ノ行爲等無之様派内ヘ通達ノ上嚴重取締有之度命ニ依リ此段及通牒候也

○同上ニ付道廳府縣ヘ通牒(同日) 道廳府縣宛

別紙ノ通り神道佛道各教宗派管長ニ通達相成候條右ニ依リ嚴重御取締有之度命ニ依リ此段及通牒候也

(別紙)前ニ出ツ

三九三

○社寺取扱概則(明治十一年九月九日)府縣宛
(内務省達乙第五十七號)

第一條 社寺之創建ハ(民有地ニ建)神官住職氏
子檀徒若クハ信徒トナルヘキモノノ寺院ハ本寺
連署戸長奥書ヲ以テ願出永續財産ノ用途且其
地所建物社寺ノ體社ハ本殿拜殿ヲ具フルモノ
ニ限リ允許スルヲ得ヘシ再興復舊等總テ之ニ
準ス(十三年内務省乙第二十八號達ヲ以テ社寺ノ體ノ下ヘ二十二字増補)

但「別紙書式ニ倣ヒ其都度當省ヘ届出ヘシ」

第二條 同上移轉廢合並社寺號改稱ハ前條ノ手
續ニ準シ其事由ヲ詳記シ願出ルモノニ限リ聞
届毎月末取纏メ當省ヘ届出ヘシ尤廢合社寺跡
地並建物等處分方ノ儀ハ從前ノ通

但式内神社並文明十八年以前ノ創立ニ係ル
社寺ノ向ハ前以當省社寺局ヘ照合ヲ經ヘシ

第三條 邸内社堂並掛所道揚引直及寺號公稱等
ハ總テ第一條ノ手續ニ從ヒ願出永續ノ用途並

建物ノ體堂宇ハ方ヲ具フルモノニ限リ聞届別
紙書式ニ倣ヒ(堂宇六尺以上)毎月末取纏當省ヘ可届出事」

(十三年内務省乙第二十八號達ヲ以テ願出ノ下ヘ二十二字増補)

第四條 前條々ノ外社寺例格ノ改定並社寺ニ關
スル條件中例規ナキモノハ其都度當省ヘ伺出
ヘシ

(別紙書式略ス)(註)寺院ニ伐木捕魚鳥禁
止ノ制札ハ縣名ヲ以テ建設スルモ差支ナシ

○廢合寺院跡地並建物處分規則

(明治八年九月七日)府縣
(内務省乙第一一三號達)

廢寺院處分之儀ニ付壬申第三百三十四號御達之
趣モ有之候處自今廢合寺院跡地並建物處分規則
別紙之通相定候條右規則ニ照準取調可申出此旨
相達候事

(別紙)

廢合寺院跡地並建物處分規則

第一節 廢寺、無檀、無住

一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ
資金ヲ以テ建設セシモノ、別ヲ論セス官沒
ス

但佛像什器處分ハ明治五年第三百三十四
號達書ノ通タルコト(九年内務省乙第七
號達本項改正)

一 境内地ノ内從前人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ
來リシモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先
住僧侶ノ買得カ其他民有ノ確證ナキモノハ
都テ官沒スヘシ

一 朱黒印地除地田畑山林等ノ内寺院ノ名受地
ハ勿論村方百姓持ノ田畑等ニアリテ寺院ノ
名受トナリタルカ又ハ先住僧侶ノ買得セシ
モノハ官沒スヘシ

一 但寺院並先住僧侶ノ資金ヲ以テ開墾セシ
證跡アルモノト雖モ官沒スヘシ
人民ヨリ寄附ノ田畑アリテ貢租作德共該寺

ニ於テ處務致シ來レルモノハ即チ寺附ノ地
面ユヘ官沒スヘシ、然シ寄附人ノ子孫再ヒ
ソノ所有ヲ欲セハ相當代價ヲ以テ拂下ヘシ
但寄附セシ次第ニヨリ別段ノ契約アルハ
此限ニアラス

第二節 廢寺、有住、無檀

一 現住職自己ノ財産ニ係ルモノ、外ハ第一節
及第四節ニ照準シテ處分スヘシ

第三節 合寺、無檀、無住

一 堂宇建物ハ最初官營私造及寺院先住僧侶ノ
資金ヲ以テ建造セシモノ、別ヲ論セス合ス
ル所ノ寺院ニ附スヘシ

一 境内地ノ内人民ノ名受ニテ貢租ヲ納メ來リ
シモノハ其者ヘ下渡シ寺院ノ名受カ先住僧
侶ノ買得或ハ開墾ノ確證アルモノハ合スル
所ノ寺院ニ附スヘシ、確證ナクハ官沒ス
ヘシ

- 但萬一除稅地ノ山林ニ於テ先住僧侶自費ヲ以テ苗木植付等ノ確證アレハ立木ノミ合スル所ノ寺院ヘ下渡スヘシ
- 人民ヨリ寄附ノ地アレハ合スル所ノ寺院ニ附スヘシ
- 第四節 合寺、有住、無住
- 第三節ニ同シ但建物境内地田畑山林等ノ内萬一現住職ノ資金ヲ以テ建造シ或ハ買得開墾等ノ確證アレハ其者ノ意ニ任カスヘシ
- 第五節 合寺、有住、無住
- 第三節ニ同シ但建物ハ檀中等ノ私費ヲ以テ浩營セシモノ及境内地田畑山林等檀中ノ私費ヲ以テ買得シテ地租ヲ納メ來リシモノ或ハ開墾セシモノハ其合スヘキ寺院並ニ法類等トノ協議ニ任カスヘシ

○寺院廢合ハ本寺法類等ヨリ出願ノモノニ限リ
開届ノ件

(明治十二年一月十一日) 府縣
(內務省達乙第一號)

無檀無住ノ寺院廢止處分ノ儀ハ明治十一年當省乙第五十七號達第二條ノ手續ニ準シ其本寺法類等ヨリ廢合出願ノ上處分可致此旨更ニ相違候事

(明治五年十一月八日)
(太政官布告第三三四號)

○無檀無住ノ寺院廢止及佛像什器處分ノ件
諸寺院中總本寺本山ヲ除クノ外無檀ニシテ無住ノ向ハ自今總テ被廢止候條各地方官ニ於テ夫々廢合處分ノ上宗名寺號共詳悉取調致部省ヘ可届出事

但佛像什器等ハ本寺法類ノ内最寄寺院ヘ合附爲致堂宇建物ノ儀ハ最初營造ノ次第ヲ追ヒ官營ハ公沒シ私造ハ其人民處分ニ可相任官私ノ別不分明ノ向ハ適宜ニ取計ヒ跡地所置ノ儀ハ總テ大藏省ヘ可伺出事

○寺院移轉ノ節本堂庫裡及地所ニ關スル件

(明治十四年六月二十二日) 府縣
(內務省規社第一六八號訓示)

號達第二條ノ通牒限リ處分シ得ルハ勿論ニ候得共自今社寺境内ヘ移轉ノ外渾テ移轉ノ節ハ十三年乙第二十八號達ノ通り社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裡ヲ具備シ且地所ハ社寺有若クハ二人以上共有ノ向ニ限リ開届候儀ト可相心得此旨訓示候也但文明十八年以前創立ノ向社寺局ヘ照會ノ儀ハ從前ノ通

○社寺ノ移轉ハ輒ク許可セサル件

(明治二十六年八月一日) 府縣
(內務省社甲第四號通牒)

明治二十四年當省訓第一〇一六號ヲ以テ社寺境内地從來查定ノ地域ハ輒ク變更スヘカラサル旨訓令相成候處右ハ移轉即チ甲地ヨリ乙地ヘ轉スルモノ、如キモ該訓令ニ含蓄ノ譯ニ有之候命ニ依リ此段申進候也

○社寺移轉許可取消後建物等建築猶豫ニ關スル件

(明治三十八年十二月六日) 府縣
(內務省社甲二一二號通牒)

社寺移轉許可後二ケ年以内ニ移轉セサルモノハ十五年本省乙第五十九號達前段ニ準シ移轉許可取消方ノ件三十四年十二月社甲第四十七號ヲ以テ通牒致置候 右移轉許可取消ノ際既ニ從來ノ境内地及其建物其他ニ賣却シタル等ニテ在來ノ場所ニ存立スルコト能ハサル者ハ明治二十年十月本省訓令第四十五號ニ準シ移轉許可取消ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出其方法確實ト認ムルモノニ限リ建築ノ爲滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與ヘ若シ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳削除相成可然コトニ決定致候條爲御心得依命此段及通牒候也

○社寺合併獎勵ニ關スル件

(明治三十九年八月十四日)
(內務省社甲第十六號通牒)

今敕勅令第二百二十條ヲ以テ神社寺院佛堂合併路地無代下附發布相成候處右ハ府縣社以下神社ノ總數十九萬三千有餘山中緒ナキ矮少ノ村社無

格社夥キニ居リ其數十八萬九千餘ニ達ス此等ノ内ニハ神社ノ體裁備ラス神職ノ常置ナク祭祀行ハレス崇敬ノ實舉ラサルモノ少ナカラス又寺院ノ數ハ七萬餘佛堂ハ三萬七千有餘ノ多數ニシテ此寺院佛堂中ニハ堂宇頽破シ境內荒廢シ法要行ハレス其名アリテ其實ナキモノ鮮シトセス故ニカ、ル神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併セシメ神社寺院等ノ尊嚴ヲ計ラントスル旨趣ニ出テタルニ外ナラス候條此主旨ニ基キ右様ノ神社寺院佛堂ハ成ルヘク合併ヲ行ハシメ殊ニ佛堂ニ在テハ其管理ノ寺院若ハ最寄寺院ヘ合併セシムルカ又ハ寺院境內ニ移シ境內佛堂ト爲サシムル方法ヲ講セラレ度而シテ合併跡地ノ下附ヲ受ケタルトキハ管理上右下附ノ旨趣ニ悖ルコト無之様嚴密監督相成度依命此段及通牒候也

○國有財産法(抄)(大正十年四月七日) 法律第四十三號

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産並ニ勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權

利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若クハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
- 三 營利財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供セント決定シタルモノ
- 四 雜種財産 前各號ニ該當セサルモノ

第五條 雜種財産ハ左ニ掲クル場合ニ限り讓與スルコトヲ得

(一、二、略)

三、神社寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ使用ヲ止メタル國有財産ヲ其ノ合併シタル神社寺院又ハ佛堂ニ讓與スル時

第十五條 國有財産ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユル

コトヲ得ス

一 植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年

第十八條 國有財産ヲ貸付シタル場合ニ於テ其貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若シクハ私人ニ於テ公共用、公用、若シクハ公益事業ニ供スル爲メ必要ヲ生シタル時ハ政府ハ其契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第二十四條 従前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財産ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス
寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財産ハ其ノ用

ニ供スル爲メ必要アル時ハ勅令ノ定ムル所ニヨリ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得

○國有財産法施行令(抄)(大正十一年一月廿七日) 勅令第十五號

第二十八條 國有財産法第廿四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスル時ハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣、大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

○佛像他管出開帳ノ件

(明治十七年三月十九日) 府縣宛
(内務省乙第一六號達)

明治九年教部省第四號布達廢止候條自今寺院佛像他管へ持出開帳ノ儀ハ該寺住職檀家總代家無檀寺院ハ信及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ徒總代及本寺法類連署ノ上本山ノ添書ヲ以テ甲乙兩管廳へ出願セシムヘシ此旨相達候事但寶物持出ハ不相成儀ト心得ヘシ

○本尊等増加變更ハ經伺ヲ要スル件

(明治二十二年七月十六日)府縣宛
(內務書記官通牒社甲第八號)

神社寺院合併ノ儀ハ十一年當省乙第五十七號達第二條之通貴廳限リ御處分ノ方ニ候ヘ共新ニ祭神本尊等ヲ増加若クハ變更スルカ如キハ右達第四條ニ準據シ當省ニ經伺ノ上御處分ノ方ニ有之候條爲御注意此段申進候也

○堂宇等公賣處分ヲ受ケ百日以内再建ノ方法ヲ立テサルモノ明細帳削除ノ件

(明治二十年十月二十一日)府縣宛
(內務省訓令第四十五號)

社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ

日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二ケ年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二ケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ削除スヘシ

○明細帳脫漏ノ社寺編入方伺出ニ關スル件

(明治二十七年五月二日)道廳府縣
(社寺局通牒社甲三七號)

自今社寺明細帳ニ脫漏ノ社寺編入方御伺出ノ節ハ其脫漏ノ事實ヲ確認スルニ足ルヘキ證據ヲ添ユルカ又ハ右證據ナキモノニアリテハ明細帳脫漏ノ社寺ト認定セラレタル事由ヲ詳具シ御伺出相成度命ニ依リ此段申進候也

○明細帳中本尊ノ誤謬訂正ハ稟議ノ件

(明治二十七年八月十九日)道廳府縣
(社寺局通牒社甲四〇號)

社寺及佛堂明細帳中祭神、本尊、社格、社號宮ニ訂正スルノ廉ニ於テ誤謬訂正ヲ要スル場合ハモノニ限ル

爾今當初誤謬ニ出テシ手續ヲ詳具シ尙之ニ關スル證左アレハ其證左相添ヘ內務大臣へ稟議ノ上御處分相成可然命ニ依リ此段申進候也

追テ本文ノ外同帳中訂正ノ廉ハ従前ノ通貴廳限リ御處分ノ事ニ候條爲念此段申添候也

○明細帳削除ノ意義及其場合ニ於ケル社寺財產處分ニ關スル件

(明治三十四年六月二十一日)府縣宛
(神社宗教兩局通牒社甲第一八號)

明治十五年本省乙第五十九號達及二十年十月本省訓令第四十五號中明細帳ヲ削除スヘシノ意義及此場合ニ於ケル社寺財產ノ處分ニ付往々疑義ノ向不少趣ニ候處爾今左記ノ通御取扱相成可然爲御心得依命此段及通牒候也

- 一 明細帳ノ削除アルトキハ其社寺ハ廢止セラレタルモノナリ尤モ右明細帳ノ削除ハ直ニ其社寺ニ相達スヘシ
- 一 明治八年本省乙第百十三號達及十九年本省令第一號ニ明文ナキ場合ナルトキハ明

細帳削除以前ニ於テ其社寺關係者ヲシテ豫メ削除後ニ於ケル社寺有財產處分方ヲ協定セシムヘシ

社寺關係者前項ノ協定ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ到底其協定調ハサルトキハ明細帳ヲ削除シ其削除後ノ財產處分方ハ民法ノ規定ニ依リ處分スルノ外ナシト雖モ可成協定ヲ調ハシムル様諭ホスヘシ

○社寺移轉ノ許可期限及建物悉皆烏有ハ狹義ニ解釋スヘキ件

(明治三十四年十二月六日)府縣宛
(神社宗教兩局通牒社甲第四七號)

十五年當省乙第五十九號達ノ疑義ニ關シ大阪府知事ト別紙寫ノ通照復候條爲御心得依命此段及通牒候也

大阪府知事照會 明治三十四年十月十六日 第一第三三二七號
明治十五年十一月七日 日本省乙第五十九號達中 疑義ノ廉有之左ニ

一 該達前段ノ規定滿二年以内云々ハ神社寺院移轉ノ場合ニモ適用スヘキ筋成ヤ
 一 又該達後段ノ規定建物悉皆トハ社ニ在テハ本殿以下寺ニ在テハ本堂以下凡明細帳ニ記載ノ建物一モ餘ササル場合ヲ指示セラレタル者ノ如シ然レトモ社寺共ニ境内ノ一小事一佛堂其他雜多ナル矮小建物ノ燒殘リタルノ故ヲ以テ悉皆ニアラストナスハ實際當ヲ得サルノ感有之寧ロ神社ニ於テハ本殿拜殿寺院ニ於テハ本堂庫裡ヲ燒失倒潰シ全ク其體ヲ失ヒ祭典法要執行ノ場所ナキニ至リタルモノヲ云フト其解釋ヲ狹義ニナス方取締上便宜ナルノミナラス實際上較相當ノ如ク思考スレトモ別段類例モ無之ニ付如何取扱可然哉
 右至急御垂示相煩ハシ度此段及照會候也

神社宗教兩局長回答 明治三十四年十二月六日社甲第四十七號

十月十六日付一第三二七號ヲ以テ十五年當省乙第五十九號達ニ關スル疑義照會ノ趣了承右第一項ニ付テハ該達ハ移轉ノ許可ニハ當然ノ適用ナキモ該達ニ準シ御取扱相成可然第二項ニ付テハ御意見ノ通リト存候經伺ノ上此段及回答候也

○市制(抄) (明治四十四年四月七日) (法律第六十八號)

第二百一十一條第二項 神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及境内地並教會所說教所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ市稅ヲ賦課スルコトヲ得ス
 但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限りニアラス

○町村制(抄) (同法律第六十九號) (年)

第一百一條第二項 (市制第二百一十一條第二項同文)

○府縣制(抄) (明治三十二年三月十五日) (法律第六十四號)

府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

○社寺境内ハ猥ニ伐木不相成件

(明治六年七月二日) (太政官布告第二三五號)

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ願出許可ヲ可受事

○同上有稅地ニ限リ伐木可開届件

(明治七年十二月十日) (内務省甲第三一號)

社寺境内樹木ノ義ハ昨六年第二百三十五號公布之通可相心得管ニ候得共社寺ノ私有タル確證有之有稅地ニ係候者及其町村ノ買得候確證有之候有稅地ニ係リ候モノニ限リ無餘儀入用有之伐木

致度節ハ所有主ヨリ其事故管轄廳へ申立事實取糺相違ナキニ於テハ可開届候此旨布達候事

○官有地境内ノ異動及伐木出願管長添書ヲ要スル件

(達明治十八年十一月十四日) (内務省官房長通牒社丙第十八號)

明治十七年當省乙第三十七條達第二項ハ官有地ニ係ル境内ノ異動及伐木等ノ願モ該達ニ準シ管長添書ヲ要スル儀ト御承知相成度爲御心得此段申進候也

○障碍木伐採ハ連署添書ヲ要セサル件

(明治二十二年一月十九日) (内務書記官通牒壬甲第二號)

十八年十一月十四日社丙第一八號ヲ以テ明治十七年當省乙第三七號達第二項ニ付官房長ヨリ通牒ノ趣候處障碍木伐採ノ儀ハ本寺法類連署及管長添書ヲ不要處分シ不苦儀ト御承知相成度爲御心得此段申進候也

○社寺境内模様替ニ關スル件

(明治二十二年九月十六日)府縣
(内務省訓令第六四一號)

左ニ掲タル條件ハ自今稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ

(省略)

一 官國幣社並延喜式内國史現在神社ヲ除ク外社寺境内模様替ノ事

但社寺ニ於テ別段山緒アルモノ及風致ヲ損スルモノハ模様替ヲナスコトヲ得ス

○境内地及本堂庫裡ハ抵當不相成件

(明治二十三年八月十五日)道廳府縣(京都府)
(社寺局通牒京甲第四號)

寺院境内及庫裡等入質ノ儀ニ付京都府伺ニ對シ境内地及本堂庫裡ノ儀ハ法要ニ必要ナル箇所ニ付抵當不相成旨本月十三日ヲ以テ指令相成候條爲御心得此段申進候也

○社寺境内使用竹木伐採處分

(明治二十四年五月二十二日)
(内務省訓令第四六二號)

官有地社寺境内ヲ他人ニ使用セシムルトキハ其社寺ヨリ管轄廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ

但祭典等ニ際シ一時使用スルハ其社寺限り承認スルコトヲ得

官有地社寺境内ノ竹木ヲ伐採シ及ヒ枯損木障碍木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ルヘシ前項ニ依リ社寺ヨリ認可ヲ請フ時ハ府縣知事ハ從前ノ例ニ準シ其社寺並風致ヲ保存スルコトニ注意監督スヘシ

社寺境内ノ使用料並竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ

但收入財産ハ明治十四年當省乙第三十三號達ニ依リ整理スヘシ

前各項ニ關スル事項ハ渾テ從前ノ例規ニ準據取扱候様嚴ニ注意スヘシ

○境内地域ハ輒ク變更セサル件

(明治二十四年十一月二十七日)府縣
(内務省訓令第一千十六號)

社寺ノ境内地ハ官民有地ニ不拘從來査定ノ區域ハ輒ク變更セサル儀ト心得ヘシ

但特別ノ事故アリ事實不得已ト認ムルモノハ該事由ヲ具シ本大臣へ稟議スヘシ

○區域變更中收用土地及本省許可ヲ要スル工事は關スルモノ取扱方ノ件

(明治二十七年十二月十三日)府縣
(内務省社甲第八〇號)

社寺境内地域變更ノ儀ニ付テハ明治二十四年訓令第一〇一六號ノ旨モ有之候處土地收用法ニ依リ收用セラルヘキ土地及内務大臣ノ許可ヲ要スヘキ工事ニシテ社寺境内地ニ關係ヲ及ホスモノハ其全部ト幾部トニ拘ラス工事設計書ノ外別ニ社寺名及所在郡市町村字並坪數等ヲ詳記シタル調査書且境内ノ幾部ニ係ルモノハ一社寺毎ノ

○枯損障害又ハ測量支障等ノ伐木處分委任ノ件

(明治二十四年七月二十四日)道廳府縣
(内務省訓令第一四號)

第一條 官有土地水面ニ關スル處内ノ内左ニ掲クルモノハ之ヲ委任ス 但處分ノ後内務報告例ニヨリ報告スヘシ

(中略)

十三 官有土地ニ屬スル枯損・障害又ハ測量ニ支障アル竹木ヲ伐採シ及處分スル事並盜伐誤伐ニ係ル竹木處分ノ事

十四 天災事變ニ際シ公益ノタメ必要已ムコトヲ得サル場合ニ於テ官有土地ニ屬スル竹木ヲ伐採シ及處分スル事

第二條 前條ノ官有土地水面ニシテ當省直轄又ハ流域兩管轄以上ニ跨ル河川及國道港灣河口ニ關係アル者ハ先ツ土木監督署ニ協議ノト處分スヘシ

境内見取圖共取添へ稟中相成度命ニ依リ此段申進候也

○民有境内官有境内ニ準スル件

(明治二十八年四月六日) 道廳府縣宛
(内務省訓令第二四〇號)

社寺境内民有地使用及管理ノ方法ハ總テ境内官有地ニ準シテ取扱フヘシ

○同上訓令ニ付取締方

(明治二十八年四月八日) 道廳府縣宛
(社寺局通牒社甲第一〇號)

社寺境内民有地取扱方之儀ニ付四月六日當省訓令第二四〇號ヲ以テ御通達相成候ニ付テハ從前社寺境内民有地ハ社寺又ハ人民等ノ私有地ト同一ノモノト誤認シ官ノ許可ヲ經スシテ樹木ヲ伐採シ又ハ休息所其他建物等ヲ設置スル爲永久貸附スル向モ有之右ハ甚タ不都合ノ次第ニ付爾後該地ハ境内官有地ニ準シ嚴重御取締有之度依命此段申進候也

○社寺保管林規則(明治三十二年八月三日) 勅令第三六一號

第一條 社寺上地ノ森林保管ヲ其社寺ノ願出ニヨリ許可スルハ本令ノ定ムル所ニヨル
第二條 保管林ノ區域ハ農商務大臣之ヲ定ム
第三條 保管林ノ保管期間ハ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第四條 社寺ニシテ保管林地ヲ使用セントスルトキハ大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ但シ祭典又ハ法用ノ爲一時之ヲ使用スルトキハ此限りニアラス

社寺ハ保管林地ノ使用ニ付林地ノ資質ヲ害シ又ハ風致ヲ損スルコトヲ得ス

第四條ノ二 社寺其ノ保管林ノ植栽ヲ願出タルトキハ大林區署長ハ條件ヲ定メ之ヲ許可スル事ヲ得

第五條 社寺ハ保管林ニ關シ左ノ義務ヲ負フ

- 一 火災ノ豫防及消防
- 二 盜伐誤伐冒認侵墾其他ノ加害行爲ノ豫

第七條 社寺ハ林地ノ資質ヲ爲サ、ル副産物ヲ採取スルコトヲ得

第八條 社寺ハ大林區署長ノ指定シタル期間内ニ其採取産物ノ搬出ヲ終ルヘシ

前項ノ期間内ニ搬出ヲ終ラサルトキハ其産物ヲ採取スル權利ヲ失フ

第九條 左ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ保管ヲ解除スルコトヲ得

- 一 社寺ノ管理者第四條ノ規定ニ違背シタルトキ
 - 二 社寺ノ管理者第五條ノ義務ヲ怠リタルトキ
 - 三 社寺ノ管理者其ノ保管林ニ關シ罪ヲ犯シタルトキ
 - 四 保管林ヲ公用又ハ公益事業ニ供スル必要シタルトキ
 - 五 本令ニ依ル許可ノ條件ニ違背シタルトキ
- 前項ノ規定ニ依リテ保管ヲ解除シタル場合ニ

防及防止

三 有害動物ノ豫防及驅除

四 境界標其ノ他ノ標識ノ保存

五 大林區署長ノ命ニ依リ看守人ヲ配置スルコト

六 大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ稚樹ノ保育及成林撫育ニ必要ナル行爲ヲ爲スコト

七 前條ノ規定ニ依リ植栽ヲ爲シタル場合ニ於テ大林區署長ノ指定シタル方法ニ從ヒ手入ヲ爲スコト

第六條 主産物ハ大林區署長ノ指定ニ依リ其ノ伐採量ノ價格ノ三分ノ二ニ相當スル部分ヲ社寺ニ於テ採取スルコトヲ得但シ明治二十年以後國ノ植栽シタル樹木ニ付テハ三分ノ一、第四條ノ二ノ規定ニ依リ社寺ノ植栽シタル樹木ニ付テハ十分ノ八トス
社寺ハ大林區署長ノ許可ヲ得タル場合ニ限り根株ヲ採取スルコトヲ得

於テハ損害ヲ賠償セス

第十條 社寺ノ管理者許可ヲ得スシテ保管林地ヲ使用シタルトキハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス社寺ノ管理者保管林地ヲ他人ニ貸付シ又ハ使用セシメタルトキ亦同シ

附 則

第十一條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ從前ノ例ニ依ル

第十二條 本令施行前ニ社寺ニ委託シタル上地官林ハ其ノ社寺ノ出願ニ依リ本令ニ定ムル保管林地ト爲スコトヲ得

附 則 (大正六年六月勅令第六七號)

從前ノ規定ニ依リ許可シタル保管林地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ社寺ノ出願アルトキハ本令ニ依リ保管スルコトヲ得

○寺院境内墓地内狩獵禁止ニ關スル狩獵法ノ規定

第十一條 左ニ掲クル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲

四〇八
スルコトヲ得ス

五 社寺境内
六 墓地

○寺院佛堂境内官有地木竹管理規則

(明治三十六年三月廿六日
内務省令第二號)

第一條 寺院佛堂ニ於テ其ノ境内官有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ本規則ニ依ルヘキモノトス

第二條 枯損木竹又ハ障礙木竹ヲ採取セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得 但シ寺院佛堂ノ合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニツキテハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一 目通五尺以上一丈未滿ノ樹木ハ其一割以內

一 目通一尺以上五尺未滿ノ樹木ハ其二割以內

前項ニ該當セサル建造物ト雖モ國法保存法ニ依リ國法ニ指定セラレタル建造物及寺院佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條 前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノ爲メ已ムヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラス地方長官ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條 林藪ノ經營上必要ナル拔伐ヲ爲サントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 前三條ニ該當スルモノト雖モ寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條 境内地ノ林藪五町歩以上ニ涉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

但五町歩以下ノモノト雖モ地方長官ニ於テ

必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムル事ヲ得

第八條 境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲ爲ス事ヲ得ス但寺院佛堂ニ於テ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此限りニアラス

第九條 地方長官ニ於テ境内地ノ林藪荒廢ノ虞アリト認ムルトキ其他境内地ノ狀況林藪經營ノ必要アリト認ムルトキハ其經營方法ヲ指定スルコトヲ得

第十條 境内地ノ林藪ニ接續スル原野ニ火入ヲ爲サントスル者ハ三日以前ニ警察官署ニ届出テ境内ノ林藪ニ對シ防火ノ設備ヲナスヘシ 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ前項ノ火入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十一條 寺院佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第十條第一項ニ違背シ又ハ同條第二

項ノ禁止又ハ制限ニ違背シタルモノハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 (削除)

第十四條 明治十五年八月二日內務省番外示達

社寺境内伐木取扱概則ハ之ヲ廢止ス

第十五條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

○寺院佛堂境内地使用取締規則

(明治三十六年 內務省令第十二號)

第一條 寺院佛堂境内地ハ左記各號ノ一ニ該當

スルモノヲ除クノ外其寺院佛堂以外ノ者ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得ス

- 一 一時限リノ使用
 - 二 參詣人休息所等其使用一箇年以内ニ止マルモノ
 - 三 公益ノ爲メニスル使用
- 第二條 前條ノ使用ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ寺院佛堂ノ承認ヲ得且地方長官ノ許

四一〇

可ヲ受ヘシ但前條第一號ノ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ可クルヲ要セス

- 一 事由
 - 一 名稱
 - 一 構造形狀寸尺等ノ概要但シ圖面ヲ添附スヘシ
 - 一 文字圖畫ヲ記スルモノハ其文字圖畫
 - 一 期限
 - 一 使用料
 - 一 坪數位置、但シ必要ニ應シ見取圖ヲ添附スヘシ
- 前項各號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ亦前項ニ同シ
- 第三條 (削除)
- 第四條 地方長官ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ其使用ヲ禁止シ又ハ其建設物ノ改造撤却其他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
- 一 制規ノ手續ヲ經サルトキ
 - 一 期限ヲ經過シタル時又ハ許可ヲ取消シ

タルトキ

一 寺院佛堂ノ爲必要ナリト認メタルトキ

第五條 本令ニ依ル許可ハ之ヲ取消スコトヲ得

第六條 (削除)

第七條 本令ハ明治三十六年十二月一日ヨリ施行ス

○境内地區域變更申稟議ヲ要セサルモノ、件

(明治三十六年十一月七日 府縣 內務省社甲第三十六號通牒)

社寺境内地ノ區域ヲ變更セントスルトキハ本省へ稟議相成ヘキ制規ニ候處左記ノ場合ニ於テハ稟議ヲ要セサル儀ト御承知相成度

- 一 皇宮地又ハ各廳ノ用地ニ地種目組替ヲ要スヘキモノナルトキ
- 一 本省ニ於テ拂下交換讓與等ヲ許可スヘキモノナルトキ
- 一 本省直轄ノ工事ノ用地内ナルトキ
- 一 本省ノ認可又ハ許可ヲ要スル工事ノ用地内ナルトキ

一 土地收用法ニ依リ收用ノ認定ヲ申請セ

ル起業地内ナルトキ

一 明治三十一年七月當省訓第六三八號ニ依ル意見ヲ開申セラル、トキ

前事項ニ關シ當省ニ於テ調査ヲ行フニ際シテハ社寺ノ意見參考ヲ要スル次第ニ付貴廳ニ於テ調査ノ節(前記第三號ノ場合ハ自然ニ)社寺ノ意見ヲ徵セラルヘキハ勿論尙其變更地域坪數境内見取略圖並ニ社寺ノ意見(社寺ニ異議アルトキ御意)當局へ御報告相成度尤モ願書、稟申書、意見開申書又ハ其添附書類ニ依リ此等ノ事項明カナルモノハ該報告ヲ要セス候依命通牒候也

追テ本文ノ次第二依リ明治三十一年十月當省訓第九一四號中「社寺佛堂境内地ハ本大臣ニ稟伺其他」ノ字句削除セラレタル儀ト御承知相成度

○境内建碑ハ境内使用ニ關セサル件

(明治三十七年六月 府縣 內務省宗甲第十九號通牒)

四一一

社寺境内ノ建碑ハ從來ヨリ境内地ノ使用トシテ取扱ハサルニ付右處分ハ客年十一月内務省令第十二號神社寺院佛堂境内地使用取締規則ニ對シテハ何等ノ關係無之モノニ付爲御心得此段及通牒候也

○飛地境内新設制限ニ關スル件

(明治四十年十一月二十六日)府縣
(内務省宗甲第二十五號通牒)

社寺佛堂境内區域變更ノ件ニ關シ昨年六月十五日附社甲第八號ヲ以テ通牒及置候次第有之候處獨立佛堂ヲ寺院ヘ合併ニ際シ附屬佛堂トシテ其儘存置スル爲其敷地ヲ寺院飛地境内ト爲スモノ、外境内佛堂並境内神社ノ移轉若クハ存置ノ目的ヲ以テ新ニ飛地境内ヲ設ケントスルモノニ對シテハ許可セラレサルコトニ御取扱相成度尤特別ノ事情アルモノニ付テハ其事由ヲ具シ御伺出相成度候
追テ一般境内地増加ノ場合ニ於テハ其増加セ

ルコト

○境内地域變更及移轉ニ關シ稟議ヲ要セサルモノ、件

(大正三年十一月十六日)府縣
(内務省宗第四〇一號通牒)

寺院佛堂境内區域變更及移轉ニ關シテハ明治三十九年六月社甲第九號同四十年五月宗第一四號同年十一月宗甲第二五號通牒ノ次第有之候處自今左記各號ニ該當スルモノヲ除クノ外稟議ヲ要セス貴廳限リ處分相成可然依命此段及通牒候也

- 一 特別ノ緣故ヲ有スル土地ヲ減縮セントスルトキ
- 一 佛堂設置ノ目的ヲ以テ飛地境内ヲ設ケントスルトキ(但シ獨立佛堂ヲ寺院ヘ合併ニ際シ附屬佛堂トシテ存置スル爲メノ場合ヲ除ク)
- 一 寺院佛堂ノ意ニ反シテ境内ヲ減縮セントスルトキ

四一二

ントスル土地民有ナルトキハ當該社寺有ト爲スモノニ限り許可セラルヘキ筈ニ有之(下略)

○上地林境内編入地管理ニ關スル件

(明治四十四年二月二十四日)府縣
(内務省社第三〇號通牒)

國有林野ヲ社寺境内ニ編入又ハ組換處分ヲ爲シタルモノハ其箇所及面積不少候處右處分後ニ至リ左記ノ如キ出願ヲ許容セラレタル向モ有之當初境内ニ編入又ハ組換タル主旨ニ背馳スルモノアルヤニ相問候處爾今境内地ノ管理ニ付テハ一層注意ノ上伐木等ノ出願アルニ當リテハ特ニ周密調査ヲ遂ケラル、樣致度依命此段通牒候也

左記

- 一 林地更新ノ目的ヲ以テ風致林ヲ皆伐スルコト
- 二 基本財産増設ノ立木ヲ伐採スルコト
- 三 手入間伐又ハ支障木、建築材等ノ名ノ下ニ過伐スルコト
- 四 農事ニ使用シ又ハ開墾シテ耕地ニ使用ス

一 特別保護建造物ヲ有スル寺院佛堂境内ヲ減縮セントスルトキ

一 特別保護建造物又ハ國寶ヲ有スルモノ及文明十八年以前創立ニ係ル寺院佛堂ノ移轉

○國稅徵收法(禮拜ニ必要ナルモノ及石碑墓地ハ差押ユヘカラサル規定)

(明治三十年三月二十六日)法律第二一號

第十六條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押ユルコトヲ得ス

四 祭祀禮拜ニ必要ナリト認ムル物及石碑墓地

○民事訴訟法(禮拜ノ用ニ供スルモノハ差押ユヘカラサル規定)

(明治二十三年四月二十一日)法律第二十五號

第五百七十條 左ニ掲クル物ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス

第十 神體・佛像其他禮拜ノ用ニ供スル物

○佛器什物等ノ登錄備置キノ件

(明治五年八月三日)府縣
(教部省達第十二號)

各管内寺院ノ向建物ヲ除之外一寺附屬之佛器什物等一切帳簿ヘ記載シ檀家惣代法類等奥印ノ上兼テ其寺院ヘ備置可申旨可相達候事

○寺院寄附帳什物帳ヲ綴ルヘキ件

(明治六年三月五日)
(太政官布告第八九號)

今般僧侶身代限規則被相定候ニ付テハ寺院所有ノ田園建造物諸什器檀家ヨリ寄附ノ分又ハ法用ニ必要ナル分並ニ古來傳承ノ寺寶等ノ部分判然相立不申候テハ差支候條左ノ規則ニ從ヒ寄附帳什物帳相綴リ置可申候

- 一 寄附帳ニハ何年何月何誰寄附ノ田園反別建造物坪數諸器物ノ質分ニ至ルマテ詳細ニ記載スヘシ
- 一 什物帳ニハ法用ニ必要ノ分並ニ寺寶ヲ區

別シ記載スヘシ

- 一 右二帳二部ツ、相綴リ檀家法類共兩人以上並ニ其地ノ戸長檢査ノ上各姓名ヲ署シ之ニ調印シ一部ハ戸長役場ニ藏シ一部ハ其寺院ニ藏シ置クヘシ

右之通相定候事

○古來所傳ノ什物祠堂金等自儘ニ處分不相成件

(明治六年七月十七日)
(太政官布告第二四九號)

神社佛寺共古來所傳ノ什物衆庶寄附ノ諸器並ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリトモ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得止儀有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省ヘ可申立候此旨布告候事

○持添ノ田畑山林寄附金並古文書類共同上ノ件

(明治九年二月二日)府縣
(教部省第三號達)

神社佛寺共古來所傳之什物等處分ノ儀明治六年七月第二百四十九號公布ノ趣有之ニ付テハ持添

之田畑山林並寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事

○寄附ノ物件別段契約ナキ分ハ讓渡ト看做ス件

(明治九年四月十八日)
(太政官布告第五四號)

神社學校病院等ヘ寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

○社寺ノ負債抵當總代ノ連署ヲ要スル件

(明治十年五月十六日)
(太政官布告第四三號)

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ル、トキ若クハ金穀ヲ借入ル、爲メ社寺附地所除稅除ク建物什器寶物古文書類等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ、若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當ナルモ其効

ナキモノト爲スヘシ此旨布告候事

○社寺ノ守札及神佛號ヲ記載セル畫像ニ關スル件

(明治十五年十月十八日)府縣
(內務省乙第五五號達)

神社寺院ノ守札ト可認モノ及神佛號ヲ記載セル畫像ハ其神社寺院ノ外出版不相成儀ト可心得此旨相達候事

但從前屆濟ノ分ト雖モ本文ニ抵觸シ不都合ト認ムル場合ニ於テハ更ニ申出ツヘシ

(註) 違背者ハ三十三年六月法律第八十四號行政執行法第五條ノ制裁ヲ受クヘシ寺院ノ當然頒布シ得ル守札及畫像ハ出版法ノ範圍外ナルモ住職自己ノ爲ニスル出版頒布ハ出版法ニ準據セサル可ラス

○觀覽料・寄附金等ニ關スル取締規程

(明治三十一年七月七日)
(內務省令第六號)

第一條 寺院及佛堂ハ任意ノ賽物ノ外參拜者ニ

對シ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ參拜セシムルタメ特ニ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第二條 寺院及佛堂ニシテ其殿堂、庭園、什寶等ヲ觀覽セシムルカ爲メ料金ヲ徵收セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 寺院、祠宇、佛堂其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル法人ニシテ寄附金又ハ負債ヲ募集セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

前項募集ノ區域カ二以上ノ廳府縣ニ涉ルトキハ寺院、祠宇、佛堂及法人ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 寺院、祠宇、佛堂及教派宗派其他宗教ノ宣布又ハ宗教上ノ儀式執行ヲ目的トスル團體ノ用ニ供スル爲寄附金募集ヲ爲ス者亦前條ニ同シ

第五條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記シタル願書ヲ差出ス

ヘシ

- 一 募集ノ目的
- 二 募集ノ方法
- 三 募集ノ金額
- 四 募集ノ區域
- 五 募集ノ期間
- 六 前各號ニ掲クルモノノ外負債ニ付テハ利率及償還ノ方法

第六條 前條各號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第七條 寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタル者他人ヲシテ其募集ニ從事セシメントスルトキハ其住所、氏名、職業、年齢ヲ記シタル願書ヲ差出シ募集地地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 第一條乃至第四條第六條及第七條ニ違背シタルトキハ寺院、祠宇佛堂及法人ニアリテハ事務擔當者其他ノ場合ニアリテハ違背者ヲ二十回以下ノ罰金ニ處ス

第九條 本令ハ明治三十一年八月一日ヨリ施行

ス

附 則

第十條 本令實施前募集ノ行爲ヲ爲シタルモノニシテ其募集ノ完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本令ヲ適用ス

○山林處分ハ認可ヲ受クヘキ件

(明治三十六年八月二十日) 各管長宛
宗教局通牒宗甲二十三號

寺院ニ於テ其所有山林ヲ處分スル場合ハ其ノ土地タルト又ハ立木ノミナルトヲ問ハス共ニ明治六年太政官布告第二百四十九號同九年教部省第三號達及十二年七月本省達乙第三十九號但書等ニヨリ豫メ地方廳ノ認可ヲ受クヘキハ勿論ノ儀ニ有之然ルニ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻ニヨリ山林ノ下戻ヲ受ケタル寺ニシテ右地方廳認可ノ手續ヲ經ス擅ニ處分スルモノ有之哉ノ聞有之如此ハ獨リ該下戻法制定ノ精神ニ戻リ寺永遠ノ利益ヲ損スルノ虞アルノミナラス法規ノ規定ニ違反スルモノニシテ住

職ノ職ニ上ノ不問ニ付シ難キ筋ニ有之候條其宗派內寺院住職ニ對シ心得違無之樣嚴重注意ヲ加ヘ且ツ如上ノ行爲アルモノニ對シテハ相當處分可相成命ニ依リ此段申進候也

○禁厭祈禱ヲ以テ醫藥ヲ妨クル者取締ノ件

(明治七年六月七日) 府縣
教部省達第二十二號

別紙乙第三十三號ノ通神道諸宗管長ヘ相違候條向後禁厭祈禱ヲ以テ醫藥等差止メ政治ノ妨害ト相成候様ノ所業致候者有之候ハ、於地方官取締可致此旨相違候事

(別紙)

同日教部省乙第三十三號達

神道、諸宗管長

禁厭祈禱ノ儀ハ神道諸宗共人民ノ請求ニ應シ從來ノ傳法執行候ハ元ヨリ不苦筋候處間ニハ之レカ爲メ醫藥ヲ妨ケ湯藥ヲ止メ候向モ有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候抑教導職タルモノノ右等貴重ノ人命ニ關シ衆庶ノ方向ヲモ誤ラセ候様ノ所業有

之候テハ朝旨ニ乖戻シ政治ノ障碍ト相成甚以テ不都合ノ次第二候條向後心得違ノ者無之様屹度取締可致此旨相達候事

○禁厭祈禱ハ醫師診斷施療中ノ者ニ限ル件

(明治十五年七月十日)府縣
(內務省達乙第四十二號)

別紙戊第三號ノ通神道副總裁ヘ相達候條今後違背ノ輩有之候ハ、直ニ差止置委詳當省ヘ具狀可致此旨相達候事

(別紙)

同日內務省達戊第三號 神道副總裁
神佛各管長

禁厭祈禱ノ儀ニ付七年六月致部省乙第三十三號達ノ趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投藥ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥ノ有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷施療中ノ者ニ限り其望ニ應シ不苦候依其旨屹度可相心得此段相達候事

○自葬ノ禁ハ自ラ解除セラル

(明治十七年十月)府縣長官
(內務卿口達)

明治五年第九十二號布告ヲ以テ凡テ葬儀ハ神官僧侶ニアラサレハ執行スルヲ許サス乃自葬ヲ禁止セラレタリ然ルニ嚮ニ教導職ヲ廢セラレタルニ付テハ自今葬儀ヲ執行スルヲ得ルモノハ獨神官僧侶ニ止マラス乃自葬ノ禁ハ自ラ解除セリ故ニ自今以後葬儀ヲ依托スルハ一々喪主ノ信仰スル所ニ任セ不可ナルヘシ然レトモ其墓地取締及葬儀ヲ執行スル場所ノ如キハ則其取締規則ニ依テ實地適當ノ警察ヲ施スヘシ

○墓地及埋葬取締規則(明治十七年十月四日)
(太政官布達第二十五號)

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シテ區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ

レハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス

但シ別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス

第四條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲ爲スコトヲ得ス

但シ改葬ヲナサントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニアラザレハ埋葬又ハ火葬ヲナサシムヘガラヌ又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非サレハ改葬ヲナサシムヘカラス

第六條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事、縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ届出ツヘシ

○同上施行細則標準(明治十七年十一月十八日)
(內務省達乙第四十號)

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタルモノニ限ル但已ム事ヲ得サル事情アリテ之レヲ取廣メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道、縣道、鐵道、大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡六十間以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ選ムヘシ

第三條 墓地ハ種類宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木

塋墓ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ル凡ソ百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ選ヒ火爐烟筒ヲ備ヘ爐烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塋墓ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 窟穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届ケ置クヘシ

第十條 死者ノ姓名、族籍、官位、勳爵、法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マリ誌、銘、傳、贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ヘ

所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニアラス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死産證ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ

第十二條 區戸長ハ前條ノ届書證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル區戸長

ノ認許證ヲ一年間保存シ警察官吏ノ求アルトキハ之ヲ提示スヘシ

第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

○墓地及埋葬取締規則違背者處分方

(明治十七年十月四日)警視廳府縣(太政官達第八十二號)

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達相成候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違警罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ

此旨相達候事

○警察犯處罰令(抄)

(明治四十一年九月二十九日)内務省令第十六號

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一 合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

三、濫ニ寄附ヲ強請シ又收利ノ目的ヲ以テ強

テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

九、祭事、祝儀又ハ其行列ニ對シ惡戯又ハ妨害ヲ爲シタル者

十七、妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱符咒等ヲ爲シ又ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八、病者ニ對シ禁厭、祈禱、符咒等ヲ爲シ又ハ神符、神水等ヲ與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

二十八、濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常灯ヲ消シタル者

三十三、神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像、其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

三十四、人ノ死屍又ハ死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

○刑死者犯罪者墓標祭祀寫真等ニ關スル取締方

第一條 刑死者ノ墓標ニハ氏名、法號、族籍、年齡、生死ノ年月日ヲ記入スルニ止メ他ノ事項ヲ記スコトヲ得ス

(明治二十四年七月二十七日)内務省令第十一號

其墓標ハ遺骸埋葬地又ハ祖先塋域ノ外ノヲ建設スルコトヲ得ス
異様ノ墓標ヲ建設シ及文字ニ彩色ヲ施スコトヲ得ス

第二條 所轄警察署ノ許可ヲ得スシテ刑死者ノ爲メ公然祭祀ヲ行フコトヲ得ス

但親族ノ香花ヲ供スルノ類ハ此限リニ非ス
第三條 刑死者ノ寫眞其他肖像ヲ公然陳列シ又ハ販賣スルコトヲ得ス

其他總テ刑死者ヲ賞揚哀悼スルコトヲ得ス

第四條 前各條項ニ違背シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若クハ十一日以上二十五日以下ノ輕禁錮ニ處ス

第五條 犯罪ニ關シ現ニ捜査、起訴、拘留、服刑中ノ者若クハ捜査、起訴、拘留、服刑中ニ死去シタル者及刑ヲ免レント欲シテ自殺シ或ハ犯罪現行ノ際殺害セラレタル者ニ付地方長官(東京府ハ)ハ安寧ノ秩序ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ特ニ命令ヲ下シ第一條第

二條第三條ニ掲クル所爲ヲ禁スルコトヲ得其命令ニ違背シタル者ハ第四條ニ據リ處分ス

○形像取締規則(明治三十三年五月十九日 內務省令第十八號)

第一條 官有地及公衆ノ往來出入スル地ニ於テ永久保存ノ目的ヲ以テ人物其他ノ形像ヲ建設移轉改造又ハ除却セントスルモノハ地方長官(東京府警視總監)ノ許可ヲ受クヘシ但墓地境内ニ於テ慣例ニ依リ禮拜ノ用ニ供スルモノハ此限ニアラス

第二條 形像ノ建設移轉改造ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ

- 一 形像ノ位置ヲ表示セル地圖
- 二 形像ヲ設置スヘキ土地ノ種目
- 三 地主又ハ其ノ土地若クハ形像ニ關スル權利ヲ有スル者アルトキハ其承諾ノ有無
- 四 形像ノ物質、製作方法及其ノ設計及圖面
- 五 礎石其ノ他ノ部分ハ文字ヲ表ハストキハ其文字

六 歷史上顯著ナラサル人物ノ形像ニ係ルトキハ其人ノ事蹟又寓意アルトキハ其寓意

七 費用ヲ募集スルモノハ募集及支出ノ方法

八 形像ノ管理及維持方法
形像ノ除却ノ許可申請書ニハ其形像ノ來歴及除却ヲ要スル理由ヲ具シタル書面ヲ添付スヘシ

第三條 內務大臣ニ於テ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ風俗ノ取締ヲ爲スカ爲必要ト認ムルトキハ既ニ建設シタル形像ノ移轉、改造又ハ除却ヲ命スルコトアルヘシ
許可ヲ得スシテ建設、移轉、改造又ハ除却シタル形像ハ地方長官ニ於テ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

○禮拜所及墳墓ニ關スル刑法ノ規定

(明治四十年四月二十四日 法律第四十五號)

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ

懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
說教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル者ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

○檀家ノ外埋葬セサル習慣ノ寺院境内墓地ハ他宗派ノ埋葬ヲ拒絕シ得ルノ件

(明治三十五年一月三日 東京市本郷區駒込眞淨寺何)

明治十七年内務省達乙第四十號第三條ニ墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ於テ死タルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限りニ非スト有之從來本寺ハ檀家ノ外他宗派異教者等ヲ葬ラサル習慣アル墓地ニ付縱令該地使用者ノ子孫ト雖モ習慣ニ適セサル他宗派並ニ異教式ヲ以テ埋葬セントスルモノアルトキハ管理者ハ拒絕致シ可然哉
警視廳令(同二月二日)
墓地埋葬ノ件伺ノ通

○社寺濫ニ菊章ヲ用フルヲ禁ス

(明治二年八月二十五日)
太政官布告

社寺ニテ是迄菊御紋用ヒ來ル者不少候處今般御改正相成社ハ伊勢八幡上下賀茂寺ハ泉涌寺般舟院等ノ外ハ一切被差止候旨被仰出候事
但格別由緒有之社寺ハ由緒書ヲ以テ可伺出候事

○寺院ノ願伺届ニハ宗名ヲ記載スヘキノ件
(明治九年三月二十七日)府縣
教部省達第十號

○寺院佛堂出火ニ付管長へ照會スヘキ件

(明治三十一年六月十日)府縣宛
内務省訓令第五百三十號

近來神社寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ是レ一ハ管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合ヲ免レサル儀ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒ヲ加ヘ候様一般神社寺院佛堂へ示達セラレハシ神社、寺院、佛堂ヨリ出火シタル場合ニ於テ法律上處分セラレ、モノアルト否トニ拘ハラス其神社、寺院、佛堂ノ管理者ハ各其管理ノ責ニ任スヘキモノナルニ依リ如斯事實生スルニ際シテハ其顛末ヲ十分審査シ果シテ懲戒スヘキモノナルニ於テハ神職ニ對シテ相當之ヲ處分シ

住職其他ノ僧侶ニ對シテハ所屬宗派管長ニ移牒シテ懲戒ヲ求メラルヘシ

○同上管長ニ於テ住職僧侶ヲ懲戒スヘキ件

(明治三十一年六月十日)佛道各管長宛
内務省訓令第五百三十一號

近來寺院佛堂ヨリ出火シテ烏有ニ歸セシメタルモノ多シ是レ一ハ管理不行届ノ致ス所ニシテ不都合ヲ免レサル儀ニ有之就テハ平素特ニ注意警戒シ不都合ヲ生セサル様取締ルヘク且寺院佛堂ヨリ出火ノ場合ニ於テ法律上處分セラレ、モノアルト否トニ拘ハラス住職若クハ受持僧侶ハ管理上各其責ニ任スヘキモノナルニ依リ宗制寺法ニ照シ相當懲戒セラレヘシ

總本山及別格寺院

總本山	京都市東山區東瓦町廿四番地	智積院	化主	齋藤隆現
總本山東京別院	東京市芝區愛宕町一丁目八番地	眞福寺	兼務住職	芙蓉淨淳
智豐兩派大本山	和歌山縣那賀郡根來村	大傳法院	座主	杉本亮譽
智豐兩派別格本山	佐賀縣藤津郡鹿島町	誕生院	兼務住職	平澤照尊
別格本山	千葉縣印旛郡成田町	新勝寺	住職	荒本照定
同	神奈川縣川崎市大師町	平間寺	住職	高橋隆超
同	東京府南多摩郡淺川町	藥王院	住職	保立俊惠

昭和十三年八月十日印刷
昭和十三年八月十二日發行

【定價金壹圓五拾錢】

不許
複製

編輯人

東京市芝區愛宕町一ノ八

教

運

同

原

野

澤

光

同

岡

崎

秀

仁

東京市芝區愛宕町一ノ八

發行人

原

教

運

印刷人

森

久

一

印刷所

ぎ

ん

ざ

社

東京市芝區愛宕町一ノ八

智山派宗務所内

智山派宗典編輯部

發行所

終

